

## 宣誓供述書

私、ピエールルイジ・ゾッカテッリは、1965年7月30日にイタリア共和国ヴェローナで生まれ、現住所を同国トリノ市コルソ・オルバッサーノ72番地に有する。トリノ市のカトリック系大学ポンティフィチャ・サレシアーナ大学で、教授として宗教社会学を教えており、イタリア社会学会等の会員である。これまでに全能神教会を含む新興宗教団体に関し、広範囲にわたり、論文や書籍を刊行し、講義を行ってきた。またイタリアで広く閲覧されているインターネット版の宗教百科事典 (*Enciclopedia delle religioni*) の「全能神教会」の項目を執筆し、*The Journal of CESNUR* では全能神教会の特集号を企画し、序文を執筆した。この号は本供述書を作成している時点で、刊行が決定している。

私は社会学者として移民問題も積極的に研究しており、移民に関するデータの情報源としてイタリアで最も権威があるとみられている『移民の統計年鑑 (Dossier Statistico Immigrazione)』に寄稿している。2010年には『トリノ在住の中国人 ある諸島の成長 (*Cinesi a Torino. La crescita di un arcipelago*)』を4名の社会学者と共同執筆した。イタリアの社会学の学術書の主要な出版社である Il Mulino から刊行された本書は、トリノ市をはじめとするイタリア各都市の中国人の移民を対象とし、中国人の移民がどのようにイタリアに来たのか、どのように入国したのかを取り上げている。あるセクションでは、活動を禁止された犯罪組織のメンバーであったものの、法的に有効な文書を用いてイタリアに入国することができた中国人を取り扱っている。私は本書を執筆して以来、ヨーロッパにやってくる中国人の移民の研究を続け、関連する学術文献にも精通している。加えて、国連地域間犯罪司法研究所 (UNICRI) と協力した経験ももつ。UNICRI の本部はトリノ市に置かれており、とくに中国の犯罪組織社会および組織のメンバーの国際的な移動に関するプロジェクトに携わった。

2010年に出版した『トリノ在住の中国人』のための調査中、我々は中国人の移民とイタリアの警察官を取材し、その後も同様の取材を行った。そのなかには、仕事を辞め、海外に渡航した中国人の元警察官も含まれる。2010年の時点で、すでに我々は（中国では）重大な犯罪歴を持つ者が、理論的には取得

不可能なパスポートをシステムの欠陥を悪用する、もしくは、腐敗した役人に賄賂を渡すことで、取得できるという結論を出している。中国の当局は不可能という結論を望むものの、我々はインタビューに加えて中国での汚職に関する文献を多数参照しており、これらの文献により、「犯罪歴をデジタル化する中国のシステムには重大な欠陥があること、また、パスポートの購入が可能であること、および、重罪人の指紋が国のデータベースに登録されていたとしても、腐敗した役人が協力すればこの問題は容易に解決されるため、障害にはならないという事実は明白に思える。また、こういった重罪人が中国を出国できたという事実は、国境で指紋による審査が存在しないことを裏づけた。

我々は中国の警察組織が巨大ではあるものの、「三合会」や「中国マフィア」という、正確さは少々疑われる異名を持つ犯罪組織が活動しており、また、警察が組織のメンバーの一部しか特定できないことを把握している。特定されていないメンバーは、犯罪歴の登録は行われていない。

活動を禁止されているものの平和を好む全能神教会等の宗教団体と、組織犯罪を比較しているわけではない点は強調しておく。この比較は誤っているが、中国の当局が行っていることなのだ。当局には、組織犯罪も活動を禁止された宗教団体も犯罪の共謀に当たるとみている。

中国人の移民と全能神教会の研究から、全能神教会の多くの信者が中国では同団体の信者だと明かさず、その結果、逮捕を免れていることは驚くに値しないと言いたい。これは中国の当局が認める事実である。中国の当局は、全能神教会の信者が 300 万人から 400 万人存在すること、および、そのうちの「数千人」が逮捕されたと主張しており（再現された文書：<https://www.adhrf.org/china-ma-xingrui-20140709.html>）、全能神教会自体が提供した、2011 年から 2013 年にかけて 30 万人から 40 万人が逮捕されたというデータ（[http://www.cesnur.org/2017/almighty\\_china\\_report.pdf](http://www.cesnur.org/2017/almighty_china_report.pdf)）には触れていない。これは警察が全能神教会の信者のうちのたった、もしくは少なくとも 10 分の 1 しか特定していないこと、および実際に全能神教会の信者を告発した者に多額の報奨金が支払われていることを意味する（参照：<https://bit.ly/2PZU7G1>、<https://bit.ly/2KuGJCy>）。当然ながら、警察に特定されていない者であっても、いつなるとき通報され、逮捕されるかわからない。

その他の事例と同様に、全能神教会は大規模な組織であり、絶えず信者の居住地を別の街、村、省と移動させることで、大勢の信者の身元の特定を防ぐことが可能となる。理論上は、中国では引っ越しの際に、新しい居住地で住民登録を行う必要があるものの、頻繁に移動すれば登録を回避できる。

信者と特定されていなければ全能神教会の信者であっても、問題なくパスポートを取得できる。しかし、逮捕され、勾留された信者は、どのようにパスポ

ートを取得し、中国の国境を超えることができたのだろうか？ 私は中国の当局筋、および、国連の難民機関である UNHCR の Refworld データベースに含まれる、主にカナダの移民当局が所有する COI（本国情報）レポートに詳しいのだが、これらの情報源から、逮捕者の名前と指紋が Policenet と呼ばれる全国的なデータベースに登録され、パスポートを発行する前にチェックされることが判明した。カナダの COI の文書はキリスト教団体の China Aid のある指導者の陳述を公表している。この陳述によると、極秘で行われた宗教団体の集会で逮捕された参加者は、警察のデータベースへの名前と個人情報の入力を求められたという（この指導者は指紋には言及していない）。これにより中国は信者のパスポートの取得を阻止できるはずである（参照：<http://www.refworld.org/docid/563c704b4.html>）。しかしながら、指紋が未登録であるため、全能神教会の信者は、偽名を名乗れば特定されずに済み、信者は一般的にこの方法を取っている。しかし、全能神教会の信者が偽名を頻繁に使用したとしても、逮捕されれば指紋が採取され、特定されてしまうはずである。

しかし、これは全て、様々な理由において、実践的というよりも理論的になのである。まず、Policenet のシステムは、まだ十分に実用化されているわけではない。Policenet は 2002 年に誕生したものの、2012 年になってようやく、当局は全ての犯罪者データをシステムに登録することを将来的に行うとした。2012 年 7 月 6 日に国営通信社の新華社通信が「中国は統一犯罪歴システムを確立し、犯罪者情報の保有を改善する」と表明しているが、つまり、この記事は Policenet を未来のプロジェクトとして言及していたといえる（参照：<http://www.refworld.org/docid/543ba3824.html>）。この点は Policenet が中国全土で導入されたとする先程の主張と矛盾していない。出生証明書や医療記録等の情報は、すでに登録が行われていたが、犯罪歴はまだ全てが登録されているわけではなかった。2012 年以降も、中国が Policenet の一環として統一犯罪歴システムの実用化に予算を当てていることを我々は毎年把握しているのだが、これはシステムが未完成である証拠である。

犯罪歴と逮捕者の指紋が Policenet に登録されているのは、一部の大都市のみだ。また、私は、容疑者の指紋を採取するシステムは、大都市をのぞき、いまだに古く、多くの欠陥を抱えていると複数の警察官から耳にした。その結果、現状では、逮捕者の多くがまだ Policenet のシステムに登録されていない。また、私の取材相手は、利用時のエラーや更新中のシステム障害にも触れていた。従って、このシステムが全てのデータを登録し、完全無欠であるという考えは、純粹に作り話に過ぎない。

地域の警察官の腐敗も重要な要素である。警察は、逮捕者を数日間警察署内に勾留し、その後、罰金の支払いを求め、釈放するかどうかを決定する。理論

上、活動を禁止された宗教団体の信者は、処罰を受け、裁判にかけられるはずである。しかし、これは地域の警察の既得権と相反する。逮捕者の裁判を提案せず、また、Policenet に逮捕者の名前を登録することなく、罰金の支払い後に釈放すれば、罰金を懐に収めることができる。私の取材相手はこのような行為が頻繁に行われていると述べた。このような場合、逮捕者は Policenet に登録されないことになる（実際に逮捕歴が登録されないため、「逮捕者」という表現が正確性を欠く可能性はある）。

これまで私は中国の全能神教会において 2 つの類の信者を精査してきた。1. 全能神教会の信者と特定されておらず、逮捕歴のない信者。2. 「逮捕」されたものの、逮捕が正式なものではなかったため（恐らく当該の地域の警察官が罰金を着服することを望んだため）、あるいは、逮捕された時および場所において Policenet が完全には実用化されていなかったため、Policenet のデータベースに登録されなかった信者。

また、第 3 の類の信者も存在する。3. 逮捕および拘留され、Policenet に名前と指紋が登録された不運な全能神教会の信者。

まず、逮捕時に偽名を名乗り、指紋が原始的な方法で採取され、利用不可能になった場合、もしくは、Policenet に登録されていなかった場合、いまでもパスポートを取得することは可能だ（私の取材相手は、電子的な方法ではなく、紙のカードを用いた古い方法で指紋が採取されている場合、指紋を Policenet にアップロードするまでに数年を要する可能性がある」と述べていた。地方ではいまだに旧式の方法で指紋が採取されている可能性がある）。

この場合、信者は警察に知られていない本名でパスポートを取得することが可能であり、指紋は障害にならない。最後に、一部の信者は不運にも本名と利用可能な指紋の双方を警察に登録されている可能性がある。しかし、先程も申し上げたとおり、中国の警察官が賄賂で動く事実に関する学術文献が存在するし、また、2010 年の我々の調査でも中国ではパスポートを購入できる点が確認されている。

偽造パスポートに関する話は、『ルートリッジ・ハンドブック 中国人ディアスポラ(Routledge Handbook of the Chinese Diaspora, London: Routledge, 2012)』に数多く掲載されている。各国の移民や難民を担当する部局は学術誌よりも Refworld のデータベース内の COI の情報を優先することが多いため、米国国務省が出版した『2014 年版人権実情報告書—中国 (2014 Country Reports on Human Rights Practices—China)』を紹介する（次の URL で閲覧可能 <http://www.refworld.org/docid/559bd57712.html>）。

この報告書は中国の警察官の間に蔓延する腐敗に関して驚くべきデータを提供している。「中国共産党の党員の間での腐敗対策を先導する組織である中国共産党中央規律検査委員会(CCDI)は 2013 年に 195 万件以上の汚職の申し立てを受け、17 万 2,532 件の腐敗に関連する事案を調査し、18 万 2,038 名の公務員を処罰したと報告しているのだ。これほどの数字は世界で例を見ない。

(上述したとおり、常に事実であるとは限らないが) 逮捕され、名前、逮捕歴または勾留歴、および、指紋が Policenet のデータベースに登録された全能神教会の信者は、理論上、パスポートを取得できないが、実際には信者自身や家族、友人が賄賂を支払うことを厭わないなら、賄賂を受けとる警察官を見つけることは困難ではない。パスポートを発行する職員が賄賂を受けとる場合、指紋も障害にはならない。

私は、指紋と名前による別の審査があるため、空港や港で賄賂を支払うことでパスポートを取得した者の出国は拒否されるはずだと中国の当局筋が主張していることは把握している。恐れながら、中国の当局筋によるこの主張は実に不合理に思える。2010 年とその後の調査に基づき広く報告しているとおり、混雑する中国の空港で多忙な警察官が名前を確認することは稀であり、指紋を確認することは皆無である。パスポートが有効に見え、特段疑わしい言動がなければ、追加の審査が行われることは滅多にない。

犯罪者と全能神教会等の弾圧を受ける宗教団体の信者の間には極めて大きな違いが存在する。前者とは異なり、後者はたとえ違法にパスポートを取得したとしても、その点を認めることを強く拒み、まずは異なる主張を行う可能性がある。信者たちは誠実な市民であり、たとえ自由、恐らくは生活を守るためであったとしても、違法行為を行ったことを認めようとしない。

全能神教会の信者が中国での身元特定を逃れ、海外に渡航できたからといって、難民申請が却下された後に帰国した場合でも、警察のレーダーをかいくぐって移動を続けられると意味しているわけではない点を付け加えておく。それどころか、2010 年に出版した書籍の中で、我々は中国から海外に渡航した中国人を中国の当局が厳重に監視していると指摘した。2015 年の文書に示されているとおり、中国の当局は活動を禁止された宗教団体の海外にいる信者を定期的に調査している(<https://bit.ly/2GwMaBA>)。

全能神教会は社会の敵とみなされており、長年にわたり中国政府から活動を禁止されてきた。海外支部の活動は厳重に監視されており、規模が小さいために、団体の参加者を容易に識別することができる。同団体の信者の一部はインターネット上で活動を公にして、自分が全能神を信仰していることを公表する動画やソーシャルネットワークの中で顔を出している。要するに、中国の当局は、以前は知らなくても、現在は信者が誰なのかを把握している。

全能神教会の信者が中国に戻れば、政府に全能神教会の信者であることが知られ、逮捕される。私が学んだように、韓国や欧州各国から中国に送還された全能神教会の信者が、帰国直後に逮捕される事例も確認されている。

2018年1月29日 トリノ

教授 ピエールルイジ・ゾッカテッリ